

【畜産部会】

# 21世紀型畜産を 共に作りましょう!

## Radix 畜産部会

**担当メンバー**  
武田昭彦（副会長）、高橋祐之（幹事役員）、川崎孝文（副会長・らでいっしゅぼーや商品部次長）、近藤龍一（同商品二課長）

昨年11月・北海道での準備会から1、2月の短角牛、放牧豚分科会、そして4月11日には発足の第一回部会と、初めての全体集会を開催（らでいっしゅぼーや共催）した畜産部会。今年はカテゴリー別の分科会を柱に、方向性を模索…しつつ充実を図ります。

### 1. より突っ込んだ情報共有を ……部会運営

■部会運営：4月の全体集会では、「自然と農業」編集発行人の有福雄一さんを迎えて、畜産における有機認証の動向を軸にお話しをいただきながら、遺伝子組み換え飼料についての方針、農産に続く生産者自主基準の作成など、全国の畜産生産者の皆さんと情報・方向性を共有しました。今後は牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳各専門分野での分科会を開催しながら、より突っ込んだ情報共有を進めていきます。

### 2. 生産者自主基準を作ろう! ……研究調査等

■自主基準策定の調査：今期の畜産部

会のメインテーマは「生産者自主基準の策定」です。自主基準は、国や様々な団体の基準ではない、生産者独自の基準のこと。

生産物の安全性、資源循環による環境保全、輸入穀物飼料、有畜複合型畜産、有機畜産基準など、畜産をめぐるテーマや課題が多々あります。こうした中、それぞれの生産現場でみなさんが規範としている自分たちの基準、生産の理念、目標などをまとめていくお手伝いをしていきます。

■生産方法の研究改善ならびに生産物の栄養分析：畜産各分野での生産上の課題を、各分科会を通じとりまとめ、改善に向けた調査等を行ないます。同じく生産方法の改善に向けての資とする

目的で、分科会での討議を経て必要に応じ生産物の栄養分析を進めます。

### 3. 安心できる生産を ……補助支援等

■生産基盤整備補助：今期の畜産部会では、個別の分科会で品質向上に向けた様々な課題が討議されることが予想されます。部会ではこれを受け、状況を取りまとめて必要に応じた支援・助成を行なっていく予定です。

■Non-GMO認証補助：畜産物の生産にとって、輸入飼料の遺伝子組み換え穀物は大きな問題となっています。らでいっしゅぼーやではこれを可能な限り受け入れない方向で、生産者の使用する飼料に遺伝子組み換え穀物の使用、混入等がないよう指導していますが、これらの検査認証等にかかる生産者の経済的負担を軽減するための補助を行ないます。

畜産部会

## 日本型畜産を構築しましょう

生産者幹事副会長 武田 昭彦  
(長野県大町市・JA 大北)



21世紀を迎え、畜産の世界では衝撃的な事件が発生しています。国内では口蹄疫が90年ぶりに、欧州ではイギリスで発生。狂牛病が牛肉に対するイメージを低下させ、畜産全体の問題が大きくクローズアップされました。

私たち畜産部会は、欧州・IFOAMの基準などを参考にしつつ、日本型、らでいっしゅ型の畜産をさらに模索・構築しなければならないと思います。

今年度の畜産部会では、「生産者自主基準」の作成を課題として取り上げました。これが各地域、各畜種で現場のノウハウと共に組み立てられ、日本の畜産の好ましいモデルケースに育てていけたらと思います。

また、土作りの基本である堆肥、きゅう肥を生産する側である畜産部会として、農産の方々とも協力し、土作りにどのような堆肥を作るべきか、地域での有畜複合のあり方なども模索していきたいと思っています。

Radixの会を通じ、さらなる技術向上を目標に、会員の皆様ひとりでも多くの参加をお願いしたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

## 21世紀型畜産を目指して!

近藤 龍一  
(らでいっしゅぼーや商品部商品2課課長)



あしーたがあるさ、あすがある、らでいっしゅの畜産には夢があるー!とは言うものの、国内外問わずどえらい問題ばかり起こってます。遺伝子組み換え飼料混入、狂牛病、口蹄疫、雪印事件、排泄物の処理…。これらの事件や問題に対し、本年度は具体的な行動に打って出ようと考えます。

先日は、非遺伝子組み換え飼料の証明書類の提出をお願いし、飼料内容についての情報開示を6月よりスタートさせました。次のステップとして生産者自主基準の作成へ向かいます。これにより生産者各々の現在と目標が明確化され、さらに具体的な行動に移ることができると考えています。また、飼料の自給問題についても一歩ずつでも前進したい!畜種別技術集会の場で、生産者の皆さんが抱える課題について検討と検証を進めたいと考えています。

日本の畜産は雪印にも農水省にも任せてられへんで! 会員さんがほんまに感動するようなもん食わしたろやありませんか!…忌憚ない意見交換をしつつ、21世紀型畜産を目指して突き進もうではありませんか!